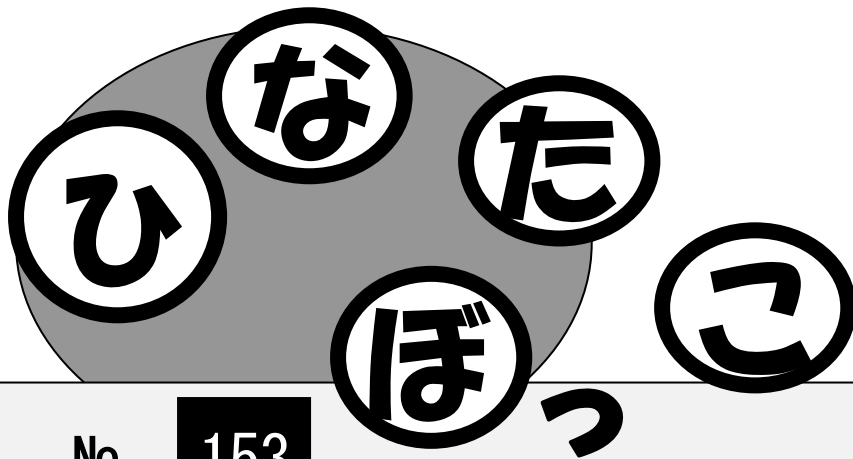




No. 153

機関誌・ひなたぼっこ

2025年8月1日号(第153号)

■発行所 宮城県高齢者生活協同組合
(ささえあい生協宮城)

発行人 長尾 智美



〒981-3203
仙台市泉区高森3-4-131

TEL 022-343-7655

FAX 022-343-7666

E-mail: koreikyo@poppy.ocn.ne.jp

URL: <http://miyagi.koreikyo.jp/>

第27回通常総代会開催

令和7年6月15日(日) 13時

30分より東京エレクトロンホール
401会議室にて開催され、第1号
議案から第4号議案まで賛成多数及
び満場一致にて採択されました。

最後に、遠山総代よりアピールの提
案があり、満場の拍手で採択されま
した。(採択決議されたアピール文
は別紙同封に掲載してあります)

2025年度目標

次の4つの目標掲げて取り組ん
でいきます。

① 指定管理の継続・受託

仙台市泉中央老人福祉センター
の次期継続のために、職員の知恵
を生かし職員みんなで作り上げ
る施設運営を目指して、職員がい
きいき働ける職場雰囲気を作り
出し、それをアピールポイントと
して打ち出す運営を作ります。

② いろり庵・ぐびしの安定経営

安定経営をするためには利用者
の確保が一番の目標で、定員25
名をめざします。地域包括支援セ
ンターや病院、関連施設などの連
携をより密にしなから、地域密着

型である施設としての認識を職
員と高め「気軽に福祉相談ができ
る場所」をアピールする方法を
検討していきます。

③ 介護保険で補えない支援体制つ くす

いろり庵・ぐびしの訪問支援では
利用者には必要なのだが介護保
険に適応外となる支援(例えば同
居家族がいる買い物支援など)、
また仙台市泉中央老人福祉セン
ターを利用する元気な高齢者で
も、生活する上でひとりではなん
ともできないちょっとした生活
支援を支える体制づくりを検討
していきます。

④ 地域で顔が見える活動

地域の中で行事や活動を展開し
ながら、その活動の母体が「宮城
高齢協であること」をアピールし
ていきます。そして「仲間つくり、
仲間を増やす活動」を常に展開
していきます。

合わせて、組合員の増員と、組合
員ひとりが5千円以上の出資金をめ
ざすこと、毎月の積み立て増資のお
願いに取り組んでいきます。

組合員のみならずまわりの協力を引き
続きお願いいたします。



総代からの質問回答をする
伊藤恵二理事長

総代より出された意見

① 千田総代より

シェアハウスの振り返りについて
「しつかり議論してから検討すべき」
を是非実行してほしい。シェアハウス
の再検討や送迎サービスも今後の課
題とするならば新年度の方針に継続
して取り組むと明記してほしい。総代会
の方針は組合員さんとの約束であり、
働く職員にとっては方針を具体化し
実行していくのかの指針となる。



提案をする千田総代

② 森田総代より

事業決算の内容をもっと少し分かり易いように説明してほしい。

総代会への大勢の参加の呼びかけをお願いしたい。便利屋を行っており病院送迎の利用が多くなっている。

一緒にやりませんか

③ 永野顧問より

顧問を大事にしてほしい。

高齢者の一人暮らしが増えて、介護保険が利用できないケースある。地域のどこのような方がいるかの把握が必要である。

「元気サロン」で盛り上がりました

今回の総代会では、中間の休憩時間を利用して、ひなたぼっこ石巻の「元気サロン」の様子を千葉理事よりの披露していただきました。

音楽「大きな栗の木の下で」「おはぎのつた」を歌いながら手遊びが始まりました。だんだん難しくなるにつれて、笑いが出たり、上手く出来なかつたりしていましたが、最後までをしっかりと体験させていただきました。千葉理事からは「最初から出れないのは当たり前、でも一緒にや

るのが楽しいのです」と話っていました。



↑ピアノ担当の久我真奈美さん

← 脳トレ指導する千葉理事



最後は「上を向いて歩こう」をみなさんと歌って終了しました。



総代会を代表してアピール文を読み上げる遠山総代

★―各事業所の活動報告―★

小規模多機能居宅介護事業所

いのち庵(ぶし)

令和7年6月18日(水)に大規模避難訓練を実施しました。この日は30度を超える暑さでした。

震度6弱の地震が発生し、発生直後にまず身を守るシェイクアウト訓練を実施しました。その後、一時避難所までの移動でした。寝たきりの利用者さんも含めて、全員が一時避難所まで移動することが出来ました。地域の方もボランティアで参加していただき、利用者さんの見守りしながら行動してくれました。

避難訓練の後には、避難所で手作りカレーライスとサラダ、杏仁豆腐、玉子スープを全員でおいしくいただきました。避難所で少し休憩をし、いのち庵(ぶし)まで戻りました。

今回の非難訓練から学んだことは、年々利用者さんが歩けなくなってきたことにより移動に時間がかかっていること、それにより緊急時には職員だけではなく、地域のボランティアなどの協力が必要であり、その体制をどう作り出すが課題となりました。



地震発生でテーブルの下にもぐる様子
←寝たきりの方も避難所へ無事移動できました。



天気よかったですので、水の森公園に散歩に出かけました。



みんなで水分補給のお茶の時間です。お菓子もあるといいね！と話す利用者さんも(笑)

いきいきいきいき

いきいき会は今年を迎え、活動も活発になってきています。

環境部では、アジサイロードをはじめ、センター内の花壇に季節の花々を植えて利用者の目を楽しませています。

手芸部は手作りの品を持って近隣の施設に慰問に行っています。（握って遊ぶおもちゃ等作成しています）

芸能部はロビーイベントを開催、近隣施設の利用者を招待してマジックジック等の芸を披露して楽しませています。



アジサイロードの手入れや花壇に季節の花を植える環境部のみなさん
「きれいね」と言ってもらえるのが一番

泉西部地域福祉事業所

6月8日（日）に組合員で15名の参加で第73回目の懇談会を開催いたしました。初めに地域在住の今田

医師より「認知症と幼児との関係」

についてお話がありました。みなさんからは「明日は我が身」のように不安を抱えている感想がだされました。その後、みなさんから切実な意見が出され、孤立・孤独の違い、地域団体との関わり、地域の医院が閉鎖による不安、免許証返上による買い物不便、バス停が遠いなどいろいろ出ていました。

毎月第2日曜日の午後から「おもしろ市」を高森6丁目で開催しておりますので気軽ににお越しください。



里山林農元気村の新鮮な野菜が買えると評判です。
手作り加工品もあります。

ひなたぼっこ石巻

恒例のフリーマーケットが毎月第3日曜日に開催しております。

「ひなたぼっこ元気サロン」も満員の御礼の状態で参加者のいきいきする笑顔で金曜日はあふれています。

若林区

5・6月と草木の活動が活発になると同時に、生活支援の「ミ」出し、買い物、片付け、草取りや枝切などの依頼が増えて、助け合いの会のスタツも忙しくなっています。

組合員の福島さんが、その采配を行っています。

若林クリニック周りの草取りも職員と一緒に頑張る、待合室の季節ごとの装飾は、夏モードにチェンジし、ヒマワリの切り絵になりました。（写真）

8月には、一人暮らしの茶話会も開催予定です。ただし、スタッフも高齢化しているので若い助け合いのボランティアを募集しております



季節に合わせた切り絵が飾られます
ひまわりは平和への思いもあります

名取地区の活動はお休みです。

【理事長「リム」】

参院選挙では、これまでと違つ政党が候補者を立てている。「参政党」や「日本保守党」などである。このニュースが属く頃には選挙結果が出ているだろうが、私はこれが日本にとって不幸な歴史の始まりとならないことを願っている。というのは、これらの党は日本の議会制民主主義の歴史を無視しているからだ。

「参政党」は、日本国憲法の理念を否定し、戦前に回歸する「治安維持法」を合法と言ってはばからない。

「日本保守党」も、現行憲法を公然と否定する。

「参政党」はアナクロニズムで現代社会の矛盾につけこみ、政治経験のない10代、20代の若者や女性層に支持を広げているといわれる。そうして戦前回歸をめざしている。

時代の逆流を目的だけに、日本の民主的発展に力を尽くしてきた高齢者こそ、今日日本国憲法の理念を否定する政党が支持を広げようつ力を尽くさなければと思う。

（理事長・伊藤恵仁）

あの人・この人紹介

「読書と写真が好きなお話職員」

ちのたじろ

【森忠重さん】宮城中

写真撮影と読書が大好きな森忠重

さんは、この庵じぶしの職員として働いています。月6回の夜勤をきむ交代制勤務をこなしながら、自宅ではハーブと野菜を育てています。

森さんは18歳で細倉鉱山郵便局

(現：栗原市)に勤務して、鉱山労働者とその家族、地域の方々にお世話になりながら、『青春と自立』への応援をいただいた、と若い当時を振り返ります。

退職間際だった、民間企業を目指す「郵政公社」では民間宅配業者と長期間の「くらくらば何争奪戦」に営業マンとして活躍した思い出を聞かせていただきました。

その間は、休日も山形県に自立的に残り、山形県の「果実のいのち」「自然の美しさ」そして「生産者との交流」を育んだと話します。この時だけでも、7冊の自家製「詩・写

真集」と1冊の「フォト絵本」を仕上げたと話します。

森さんは人生の節目節目で「エッセイ」「詩」「記録」「写真」を残されています。今も、白鳥など冬の渡り鳥や「七ツ森の四季」にカメラを向けています。

そんな森さんは、60歳で旧郵政省を定年退職後、「天下り」を嫌い、高齢者介護事業所に就職し、70歳で「この庵じぶし」と巡る会になります。柔軟な人事に助けられて、毎日を高齢者といふれあい、介護員として働いています。

政府が勝手に名づけた「後期高齢者」世代となった今、「超高齢化社会」で「ゆめやかに、そして自分らしく」どの様に暮らして行かかが課題です」と話します。

現在の高齢者や障がい者の暮らしへの風潮では、「働け、税金を高く納めろ」と批判されます。しかし、働いても、厚生年金には加入させられず、独自の高い保険料を支払う「後期高齢者保険制度」に分離されています。まさに、社会保障制度から切り離れた「差別を味わっている」と森さんは話します。

それでも、自立して、困難があっても、静かな海の水平線に、燃え立ち昇る朝陽に溶け込むように、「新しい今日」を生きていきたい。と最後に話されておりました。語ります。

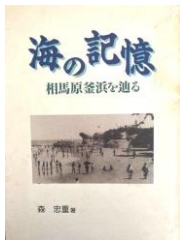


森忠重さん



野蒜可港に昇る朝陽

撮影・森忠重



海の記憶
(小野田書房)

今回は「宮城高齢協の基礎を作り上げた」【遠藤くに子さん】です。

お詫ひ

前号の「あの人・この人紹介」で間違いがありましたので、お詫びして訂正いたします。大変申し訳ありませんでした。

なお前「中原智枝さん」でした。

また3ページの段目3行目の記載で大型店のトレーニングが断られたように思われる表現でしたが、そのようなことはなかったので訂正いたします。

この庵じぶしスタッフ募集中

介護資格がない方は働きながら資格取得を援助します。勤務時間などお気軽にご相談ください。

電話022-7779-6270

朝の時〜夜7時 長尾・藤田まで

「機関誌ひなたぼっこ」年間3回の予定で発行し、組合員の活動や情報を掲載報告しております。

あなたの身近な情報などをお知らせください。

宮城高齢協・組合員数 1149名
(2025年7月2日現在)



「いつものクイズ」はお休みいたします